

翻刻凡例

- 一 原本原文を忠実に復元することを原則とし、史料で使用されている漢字は、正字体・異体字で記されているものは、そのまま正字体・異体字を用いた。
- 二 明らかな誤字は、本文中の該当文字右傍に正しい文字をルビで記した。誤字と判断し難い文字については、該当文字の右傍に初回のみママとルビで注記し、二度目以降については、敢えて注記しなかった。誤字の可能性が高いものの、確定し難いものについては、□□カと表記した。
- 三 脱字と思われるものは、本文中該当箇所の右傍にルビで□□脱と表記した。
- 四 変体仮名については、現行のひらがな、またはカタカナに改めた。ただし、助詞として用いられる者_者、江(へ)、与(と)、ないし、よ、之(の)、ハ(は)、ニ(に)、而(て)は、表記のままとした。
- 五 踊り字については、漢字は「々」、ひらがなは「ゝ」、カタカナは「ゝ」、「ゆくゆく」のような副詞は「くく」で表記した。
- 六 「合字」を用いている場合は、できるだけ合字を用いたものの、ひらがなに開いたものもある。
- 七 読みやすさを考慮して最小限の読点(、)や並列点(・)を付した。清濁は原本のままとした。
- 八 虫損・汚損等で判読できない文字は、字数の分かるものは、□□□、字数の分からないものは、□と表記した。